

NIRA 研究叢書

福島潟の環境保全と
地域活性化手法の研究

株式会社 グリーンシグマ

序 文

本報告書は、総合研究開発機構から昭和年度研究助成を受け「株式会社グリーンシグマ」が昭和 62 年 7 月から翌年 3 月まで実施した「福島潟の環境保全と地域活性化手法の研究」の研究成果を取りまとめたものである。

かつて日本海沿岸の平野には数多くの潟が存在していたが、水田拡大の歴史の中で干拓が行われるにつれて、次第にその姿を消していった。新潟平野の北部に位置する福島潟も干拓等によって、434ha あった湖面も 240ha を残すのみとなっている。

現在の福島潟は農業的利水と周辺住民の生活を守る治水的機能、並びに野鳥などの生息地としての自然環境として、その存在価値を有している。しかしながら、都市化の進展による土地利用の変化・生活様式の変化に伴う住民意識の高度化など、潟をめぐる価値観は大きく転換しつつある。

本研究はこのような背景の中でともすれば保護か開発かという二極化した議論になりがちな現状に対してこれからの人間社会と自然環境との調和の方向を見出すことを心がけて進めたものである。しかし、この分野の研究は近年ようやく緒についたばかりのものであって多分に試行錯誤にならざるを得ない面があり、研究にあたっては内外の事例等を調査し参考とすることが多かった。

また、本研究は手法に重点をおいた学問的研究であって提案等については、必ずしも行政諸機関等と十分調整が行われたものではない。今後、具体的な施策の実施にあたっては行政諸機関等における検討と相互の調整を図りつつ慎重に取り組まれることが望ましい。

なお、本研究を進める上で貴重な御助言を頂いた委員の方々に厚く御礼を申し上げますとともに、資料の提供等御協力いただいた関係諸機関並びに地元の方々に對してここに深く感謝の意を表する次第である。

昭和 63 年 2 月

研究代表者

社団法人 北陸建設弘済会

専務理事 土屋 雷蔵